

キューバでの弓道

フロリダ武道館

チェルシー・ヴェリジャ

12月中旬のある暖かな朝のことだった。眩いカリブ海の陽射しがハバナの歴史的地区の石並びの細道を降り注いでいる。着物と袴を着た3名がメルカデレス通りにある『博物館アジアの家』へと向かっていた。手には弓と矢を持っている。彼らのいで立ちは、現地の人々やたまたま居合わせた旅行者など、群衆の注目を引かないわけがなかった。群衆のある者は好奇心に満ちた視線を注ぎ、ある者は微笑みを投げかけ、またある者はエキゾチックないで立ちの3名を写真に収めたりした。3名のうち、一人はベレン・ペレス。

スペインのサラゴサ大学の教授であり、また『弓道の本質』(“The Essence of Kyudo”)の著者である。さらに、セバスチャン・ヴェリジャとチェルシー・ヴェリジャ。二人は米国フロリダ州内で唯一の弓道場を持つフロリダ弓道場の創設者である。在キューバ日本国特命全権大使・平田健治氏、キューバ・アーチェリー連盟、そしてキューバ国スポーツ体育レクリエーション庁のサポートを得て、彼ら3名は弓道の技を披露するため、ハバナを訪れたのだった。キューバの人々が弓道を目にするのはこれが歴史上初めてとなる。

『博物館アジアの家』の中には、きらびやかに装飾された梁天井がひときわ目立つ長い展示ホールがあった。アジア大陸から伝来した美術品や骨董品を所蔵しているキューバ植民地時代の建築物の一つである。展示ホールは期待に満ちた表情を浮かべる人々



で満席となっていた。直前の展示は大規模な日本の木版画コレクションだったという。おかげで弓道の技を紹介する絶好のタイムミングとなった。最初にペレス先生による講義が行われた。パワーポイントを駆使して、弓道の基本要素を解説。射法八節の8つの項目、真善美の原理、そして弓道の稽古に必要な弓具と弓道場の概説。講義のあと、キューバの観客にも弓道の原理や八節をより具体的に理解してもらうため、ペレス先生とセバスチャン&チエルシー・ヴェリジャの3名によって、巻藁を使った一つの射札の演武を行った。その後、白熱した質疑応答が行われた。もっと弓道について学びたいという熱心な声が聞かれた。また、これからキューバで弓道を始めるには一体どうしたら良いのかと真剣に尋ねてくる声も聞かれた。

翌日、同様のイベントがマニユエル・ファ



ハルド国立体育大学で開催された。大勢の参加者があり、中には徒歩で、あるいは自転車で何時間もかけてやって来たと言われる参加者もいた。前日アジア館でのイベントに参加した姿もたくさん見られた。前日のイベントで大変感銘を受け、もう一度弓道を見てみたいと望んでいたことだった。この日は平田大使もイベントに参加された。質疑応答では大使も積極的に加わり、自らの考えを観客に紹介。さらに参加者との写真撮影にも快く応えられた。

3日目、ベレン・ペレス、セバスチャン・ヴェリジャ、チエルシー・ヴェリジャの一行はハバナ市郊外レパルト・セリマールにある長徳道場を訪れた。同道場はエルネスト・グスマン先生が経営している武道場である。のどかな田園地帯に位置し、コンクリート製の床を持つ屋外テントの形をした道場だった。





すでに数名の道場生が姿を見せおり、落ちていたシュロの葉や枝を即席の箒に仕立て上げ、床に落ちていた葉やその破片などを掃いていた。やがて、大勢の人々が集まってきた。そのなかには、長徳道場の生徒たち、彼らの家族、他の道場から訪れている生徒たち、弓道に関心のある近隣の一般市民、さらに平田大使の姿もあった。この日のイベントは前日までのイベントとは異なり、非公式のもので、一つの射礼から始まり、射法八節の各項目の披露が続いた。約45分間、セバスチャンとペレスの両名は一連の動作に関する観客からの多くの質問に答えた。その後、興味を示している人々に射法八節の各項目を試す機会を設けた。その際に使われたゴム弓はヴェリジャ先生が寄付したものである。この日、参加した生徒の年齢は6歳から88歳と幅広く、皆が弓道体験に高い関心を示した。

「今回の旅の全体的な印象として、キューバの人々は心の温かさと寛大さを持った人々であるということが挙げられます」とセバスチャンは語る。「私たちは行く先々で厚いおもてなしを受け、大変感銘を受けました。彼らは弓道という未知の技術に高い関心を示し、またそれを学ぶことを熱望しています。体力向上の手段として、精神修養の手段として、さらには霊的な幸福を高める手段として、弓道を近い将来に学ぶ姿を思い描いて、彼らはとてもワクワクしています。キューバという国が現在様々な障害と困難に直面していることは間違いありません。しかし、そこで暮らす人々は誠実であり、人生を肯定的に受け止めており、さらに希望を抱いて前に進もうと強く願っています」

スポーツ文化はキューバにおいて強い伝統を誇っており、野球とサッカーはその最た

るものである。そして合気道や空手、柔道に代表される日本の武道や武術も人気が高く、キューバ国内の至るところに道場が置かれている。しかし、弓道ができる場所は存在しないのが現状である。マニユエル・ファハルド国立体育大学は創立50年を迎える2023年の夏に、ベレン・ペレス、セバスチャン・ヴェリジャ、チエルシー・ヴェリジャの3名を再び招聘し、学生向けの正式な弓道コースを設けることを提案した。これが実現すれば、同国に弓道が定着する最初の大きな一歩となるに違いない。これをきっかけとして、弓道がキューバ国内に根付き、さらにはより大きなカリブ海地域全体にも広がることをベレン・ペレス、セバスチャン・ヴェリジャ、チエルシー・ヴェリジャの3名は心から願う次第である。